



平成30年度認知症地域支援推進員研修【新任者研修】
Ⅱ 認知症の人とその家族の支援体制の構築及び
認知症ケアの向上を図るための取組みの推進
『連携支援・ケアパス（事例②）』

(平成30年度認知症地域支援推進員研修事例報告)

関係機関との協力体制の構築と推進

～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅうをめざして～

岩手県奥州市
奥州市地域包括支援センター
松戸 智美



岩手県 奥州市



平成18年2月 2市2町1村が市町村合併
総面積は、993.30平方キロメートルと広大。
(東西に約57km、南北に約37km) ※東京23区やシンガポールより広い！

- 地域の中央を北上川が流れており、地域全域が緑のあふれる豊かな自然に恵まれている。
- 総面積のうち、農地の割合が高く、稲作を中心とした複合型農業により、県内屈指の農業地帯となっている。

(特産品)南部鉄器 前沢牛 江刺りんご 等

岩手県奥州市



	平成30年3月末現在
総人口	118,166人
高齢者人口	39,440人
高齢化率	33.4%
世帯数	45,017世帯
要支援認定者数	2,262人
要介護認定者数	5,642人
第7期介護保険料(年額)	62,400円
地域包括支援センター数(直営)	1か所(本庁) (駐在4・サテライト1)
日常生活圏域数	5圏域
認知症地域支援推進員数	3人(直営包括:専任1、兼務2)

平成29年度奥州市認知症施策事業

	事業名
認知症の人を支援する関係者の連携を図る事業	認知症になっても安心まちづくり連絡会
	認知症になっても安心まちづくり連絡会研修会
認知症への理解を深めるための普及・啓発推進事業	キャラバンメイト自主活動組織育成支援
	認知症サポーター養成講座
	認知症にやさしい地域づくり講演会
	一般市民向けの情報揭示
	「おうしゅう認知症おたすけ便利帳2版ダイジェスト版」の周知と活用
認知症の容態に応じた適切な対応のための体制整備事業	もの忘れ相談プログラムの活用
	認知症支援者相談会
	認知症初期集中支援推進事業
	はいかいSOSネットワーク事業
	徘徊模擬訓練事業
	「情報提供書(もの忘れ等相談連絡票)」の周知と活用
認知症の人や家族を支援する事業	「認知症支援ぬくもり隊」自主活動支援
	認知症カフェ
	認知症介護者家族交流会「ぬくっこ」
	若年性認知症の本人・家族が相談できる窓口の周知拡大

認知症地域支援推進員の役割

～専任～

- キャラバンメイト組織育成支援、認知症サポーター養成講座
- 認知症カフェ、認知症介護者家族交流会の開催 等

～兼務～

- 「認知症になっても安心まちづくり連絡会」や各種部会
- 認知症初期集中支援チーム事業 等

具体的な企画・運営・見直し・推進のプロセス

○企画・運営

地域包括支援センター(直営)内に認知症対策グループをおき役割分担し企画、事業実施

○評価と見直し

事業計画や評価及び見直しは、地域包括支援センター運営協議会(年3回)及び認知症になっても安心まちづくり連絡会(年2回)で実施

奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会

◎連絡会

認知症の方に関わる関係者で構成 21団体(H29年度)

医師会(認知症サポート医4名)、歯科医師会、薬剤師会、介護施設関係者、ケアマネジャー代表、市民ボランティア、介護者家族、商工会議所、社会福祉協議会、金融機関、タクシー協会、弁護士、消防、警察、タクシー協会、県長寿社会課、市健康増進課 等

◎部会の開催

- 優先度の高い課題を選んで、具体的な解決をはかっていくための部会を設置している。(部会は毎年まちづくり連絡会で決定する。)

連絡会設置までの経緯

(1) まずは相談

- 日常業務の中で認知症に関心が高いと思われる事業所や関係機関に相談（医師会及び認知症サポート医・銀行・理容師・民生委員・ケアマネジャー・グループホーム等）
- 庁内関係課に相談（教育委員会・保健センター・市民課総合相談室等）

(2) 方針の明確化

- 医療・介護・地域支援サービス連携の再構築
 - ◎部分的連携にとどまらず、市全体で取り組むための連絡会の設置
 - ◎地域課題を共有し、対策を検討する部会の設置
- 認知症の人とその家族の支援の充実
 - ◎認知症の人とその家族の支援を共通の課題として地域で支えるための普及啓発や具体的な事業化を推進

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 各部会の取組み

- 普及啓発リーフレット(H24)
- おうしゅう認知症おたすけ便利帳(H25)
- おうしゅう認知症おたすけマップ(H26)
- 「おうしゅう認知症おたすけ便利帳2版」(H27)
「便利帳」に「認知症ケアパス」を加え作成
 → 窓口の相談時に活用
 関係機関に配布
- 「おたすけ便利帳2版」のダイジェスト版
認知症の症状とケアパス、相談窓口、主な利用サービスを掲載



- 各相談窓口に設置
関係機関に配布
医師会、歯科医師会、薬剤師会、
在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、
民生委員、タクシー協会、銀行等



「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 各部会の取組み

○徘徊対応部会（H24、26～27）

- 徘徊高齢者登録台帳の作成
- 登録者に目印となるステッカーの配布
- 周知のチラシ作成
- 行方不明者の搜索活動について協議
- 「奥州市はいかいSOSネットワーク図（案）」作成
- 市内の主な機関へ協力依頼



徘徊SOSネットワークの構築

- ・H26.2月登録事業運用開始
- ・H28年6月搜索ネットワーク運用開始

○受診連携ツール作成部会(H28)

・情報提供書(もの忘れ等相談連絡票)の作成

認知症(疑いを含む)の人やその家族への支援において、相談支援機関から医療機関に情報提供する際の書式を定めて利用することで、情報共有を円滑にし、効果的な連携を促進していくもの。

※地域包括支援センターの相談場面やケアマネジャーの支援に活用する。
医療機関への情報提供であり、回答を求めるものではない。

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 H29年度の取組み

○研修会

「先進地自治体の取組みを学ぼう！」

- 県内先進地自治体の認知症地域支援推進員を講師に研修会を開催
- 講話後、「認知症があっても住みよい奥州市にするために、私たちができること」をテーマに情報交換会を開催

行政区単位で
小さな勉強会
を実施



日常的なイベント(スポ
ーツなど)に合わせて
認知症の周知を図る

情報交換会で出た
意見の一例

～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～

キャラバン・メイト活動支援と認知症サポーター養成講座

- フォローアップ研修会の開催
- キャラバン・メイト自主活動組織育成支援
奥州市キャラバン・メイト連絡会スマイル²をH24.5月設立し、
組織的に自主活動を開始
キャラバン・メイトオレンジ通信発行
- 認知症サポーター養成講座

※包括の推進員が事務局として、メイトの自主性を尊重しながら、報道機関等への情報提供や各種連絡調整等後方支援を行っている。「キャラバンメイトがいます」という表示板の発行等。



～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～

認知症サポーター養成講座の様子



～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～

認知症支援ぬくもり隊養成講座と自主活動支援

～養成講座～

- 認知症を学び、認知症になっても安心地域づくりを一緒に考え行動する市民ボランティア養成
- 各分野の講師による講話とアクション・ミーティングを実施

～自主活動支援～

- H26年度に修了生で「奥州市認知症支援ぬくもり隊」を結成
- 地域包括支援センターは事務局としてバックアップ
- H28年度に再び養成講座実施、修了生加入

～平成30年度の活動～

- 「ぬくもり農園」での野菜作り
- 「のんびり青空レストラン」の実施（2か所）
- 奥州市の認知症事業への協力

隊員35名で
活動中！



～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～

認知症支援ぬくもり隊活動の様子



ダブルケアの方
にも参加してほしい

他の活動グループ
と交流したい

世代間交流の
きっかけにな
れば…

車の運転が心配…
送迎できないか…



子どもたちも
巻き込みたい

ぬくもり隊の皆さんの思い、アイデア

～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～
「キャラバンメイト・スマイル²連絡会」
「認知症支援ぬくもり隊」合同フォローアップ研修会

○きっかけ

- 認知症になっても安心まちづくり連絡会

⇒会長と隊長から「認知症支援ボランティア同士、お互いの活動を知り、交流する機会が持てないか？」と包括に相談

⇒それまで各々開催していたフォローアップ研修会を合同で開催

○内容

- 認知症サポート医による講話と活動発表、交流会

○得られた成果

- 今後はお互いの活動について情報提供し合うことに
- 認知症サポート医が双方の活動に興味をもち、先生にも情報提供していくことに

～「認知症になっても安心まちづくり連絡会」をきっかけとした連携～ 郵便局パネル企画展

○きっかけ

- 平成25年度より、認知症になっても安心まちづくり連絡会の委員として参加いただいていた
- 平成28年度 市役所ロビーで認知症パネル企画展を実施。翌年、郵便局のロビーでの開催についてお声がけいただく。
- 従業員への認知症サポーター養成講座も開催（平成28、29年度）



～その他にも…～

- ◆ 郵便局、銀行からの気になる方の連絡が増えています。
⇒「迷惑」という内容ではなく、「早めの対応を…」という内容。

まとめ(成果)と課題

様々な関係機関や、住民との連携が進んできた！



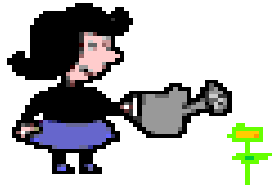
「認知症になっても安心なまち」に近づいてきた...！？

今後に向けて

- 認知症の理解を深めるための普及啓発を繰り返し行う。
- 個別地域ケア会議や初期集中支援事業等を活用し、個別ケースから見えた課題を事業に反映させる。
- 各事業の評価をし、効果的な実施方法を検討していく。
- もっと関係機関や住民と一緒にできることがあるのでは・・・。



連携は道半ば・・・



推進員の皆さんへのメッセージ

- 💡 出会った人のつぶやきや本音が企画の源
- 💡 課題を共有できれば、必ず一緒に動いてくれる！
- 💡 「つながり」を大切に
- 💡 「笑顔」を目指して

ご清聴ありがとうございました。